

第1分科会

生徒の育成を図るために持続発展する コミュニティ・スクールと地域学校協働活動

発表者 金沢市立長町中学校 校長 中田 知邦

学校所在地	生徒数	学校運営協議会			地域学校協働活動 推進員等数
		設置年度	委員数	年間開催回数	
石川県金沢市	346名	令和5年度	15名	3回	2名

学校教育目標

「みらいを拓く 心豊かな生徒の育成」

学校・地域の特徴



- 令和5年度より長町に移転し、校区を再編して長町中学校として開校
- 移転により小学校区が1つ加わり、7つの公民館のある中学校区として再編
- 金沢市の特別支援教育実践拠点校

学校運営協議会の概要

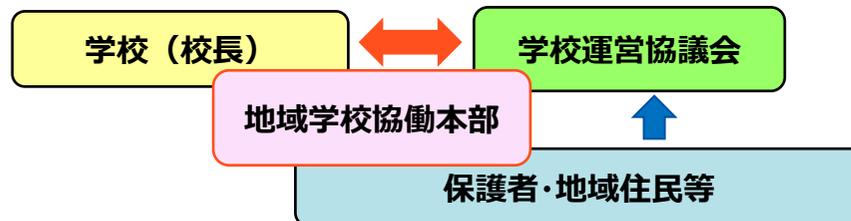
委員の構成

- ・町会連合会長
- ・公民館長
- ・児童委員
- ・スクールサポーター
- ・PTA
- ・学校医
- ・小・中学校長

これまでの主な議題例

- ・学校経営計画
- ・学校評価計画
- ・学力向上の取組
- ・生徒指導の取組
- ・生徒会活動の取組
- ・学校保健委員会の取組
- ・働き方改革の取組 等

組織図



地域学校協働活動の 特徴的な取組や工夫など

地域学校協働活動推進員等のコーディネートによる特徴的な取組は以下のとおり

- 学校や地域が行うボランティア活動の調整と協力
 - ・花植ボランティアへの協力
 - ・高齢者宅への年賀状や弁当の配達
- 職場体験のために中学校区にある事業所への協力の依頼や調整
- キャリア教育や調理実習など授業で活用する地域人材への依頼や調整



(1) 校区再編する前の学校の状況

令和5年度に別の校区に移転し、新設の統合校として開校

小将町中学校（前身）→ 長町中学校（現在）

小将町中学校

※令和4年5月の状況

○小将町中校区にある小学校から主に進学

・通常学級 6学級 生徒数 196名

・特別支援学級 11学級 生徒数 64名

※金沢市の特別支援教育実践拠点校

○学校運営協議会の設置〔令和2年度より〕

○中学校区に3つの公民館あり



(1) 校区再編した後の学校の状況

長町中学校

※令和6年5月の状況

※()の数はR4からの増加数



○学級数増

- ・通常学級 11学級 生徒数 346名
(+5学級) (+150名)
- ・特別支援学級 13学級 生徒数 85名
(+2学級) (+21名)

※金沢市の特別支援教育実践拠点校

※特別支援学級の校舎は学校外に設置

○学校運営協議会の設置〔開校した令和5年度〕

○中学校区に7つの公民館あり

(1) 学校運営協議会を設置するまでの動き

【R4年度：小将町中】

- 新設する長町中にも、学校運営協議会を設置するための準備を開始



- ・小将町中で地域学校協働活動推進員をしていた方に協力してもらい、新しい校区にある小学校の地域学校協働活動推進員とともに、新しい組織に入る委員メンバーを調整
- ・学校が新しい組織に入る委員メンバーの中から、委員となる15名を選定（メンバーからの内諾あり）

【R5年度：長町中】

- ・校長が教育委員会に学校運営協議会の委員を推薦し、教育委員会から委員の任命

金沢市教育委員会では、平成30年度から全小学校、令和2年度から全中学校にコミュニティ・スクールを導入

(2) 学校運営協議会で大切にすること

① 学校課題の共有と学校の基本方針の承認

学校の実情や課題等についても共有するとともに、学校運営協議会に参画する保護者や地域の方から、「こんな学校づくりや学校経営を目指したい」「こんな生徒を育てていきたい」などという学校の**基本方針の承認**や様々な教育活動等に対し**意見を**得る必要がある。



② 地域の願いや想いの共有

生徒はいずれ大人になり、地域を支える大切な一員となる。地域が持続発展していくためには、将来、生徒が地域に暮らし、地域のために貢献できる大人に成長することが望まれる。

そのためにも、「こんな生徒に育ててほしい」という**地域の願いや想い**を学校は共有する必要がある。

(1) 地域学校協働活動で大切にすること

① 学校教育目標やめざす学校像の実現に向けた連携・協働

学校教育目標やめざす学校像の実現を目指すためには、学校の努力や取り組みだけでは実現できない。コミュニティ・スクールとしての強みを生かすとともに、地域学校協働活動を通して、学校・保護者・地域が持続的に連携・協働していくことが必要である。

② 実現に向けて大切にしたいポイント

- ・地域の人材や施設等を有効に活用する
- ・教員の業務を改善(働き方改革)する
- ・学校に対する意識(学校の基本方針への関心や理解)を高める
- ・学校・保護者・地域がともに持続発展できる関係をつくる
- ・「学校づくり」に加え「地域づくり」と「人づくり」の視点も大切にする



(2) 地域学校協働活動を生かした教育活動の推進

- ① 職場体験する事業所の確保によるキャリア教育の充実
- ・校区にある店舗、公共施設、保育所、介護施設等に協力依頼し、事業所を確保する



- ② 興味・関心の高い職業講話によるキャリア教育の充実
- ・「職業人に学ぶ会」では、生徒の興味・関心の高い職業の講師から話が聞けるよう考慮する

- ③協力できる店舗や保育所の確保による家庭科授業の充実
- ・調理実習のため、校区のスーパーが食材を学校へ配送する
 - ・幼児との関わりを学ぶ授業に協力できる保育所を確保する
- ④花植ボランティアによる学校環境と道徳教育の充実
- ・生徒と地域の方が協力して学校花壇への花植を行う



- ⑤地域ボランティアによる道徳教育の充実
- ・生徒が高齢者宅に年賀状や弁当を配達する
 - ・高齢者との触れ合いを大事に活動する

(1) 成果

- ・学校の教育活動に理解を示す地域の方が増えている
- ・地域の人材や施設等を活用することができるようになってきた
- ・地域学校協働活動推進員が入ることで教員の負担が減った

(2) 今後の課題

- ・地域の人材や施設等の活用が十分ではない
- ・学校の課題や地域の願い等の共有がまだまだ弱い
- ・情報の共有や連携を図るために必要な場の設定が少ない

最後に、

学校と地域が連携・協働しながら生徒を育てることができる「**地域とともにある学校**」を目指したい。

今後も学校・保護者・地域がともに持続発展できる関係を大切にしていきたい。

